

## 会長のブログ

素晴らしいケーパタウン会合の後に私が会長に就任すると、IRPAに数多くの事業が進行していることがわかりました。私たちは、大きなプログラムを有しており、そこに多くの時間を充てています。これは会員各位と加盟学会の協力なくしては成しえないことを意味しています。

6月に、私はIAEAの放射線安全基準委員会(RASSC)に参加しましたが、私達のウェブサイト(irpa.net)のニュースセクションの興味ある項目について報告がありました。このウェブサイトで起こっていること注視してください。というのは、国際レベルで進展しつつある重要な課題について最新の知識を持ち続けることが、とても重要だからです。

私はアデレードで開催されたAustralasian Society ARPSのゲストとして招かれ、今しがたオーストラリアから帰国したところです。主なテーマは、放射線とリスクを幅広いコミュニティに伝えるための継続的な挑戦で、南オーストラリアは国際的な燃料廃棄物貯蔵を確立する新しい提案を検討しているため、彼らにとっては現在ホットなトピックでした。

これまでにIRPAが防護体系の提示と対話についての諮問を引き受けてきたことは、皆様にご存知かもしれません。加盟学会の反応は、皆様がどのように放射線防護の専門家としてチャレンジを理解するのか、優れた見通しを与えてくれており、いくらか興味深く、考えさせられる課題がまともにつつあります。私たちは、加盟学会によるレビューのために、予備的な成果をまもなく出しますので、私たちの対応を具体化するためのこの機会を注視してください。

私たちは、11月に、とても広い範囲の議事で、新期の第一回理事会を開催します。私たちは、戦略および優先順位と、いかに医療分野と調和するかということ、公衆の理解に関するプログラムの次のステップ、そしてIRPA理事会のもっとも広い代表性をいかに確実にするかということを含む、重要な事項を決定します。

概して、とても刺激的で忙しい時間でした。

IRPA会長 ロジャー・コーツ



IRPA会長と、Australasian Society ARPSのキャメロン・ジェフリー会長及び他の役員会メンバーとの面会。

この"IRPA会報"の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

### Your IRPA Commission on Publications

Chair Christopher Clement • Vice Chair Bernard LeGuen • Bulletin Editors Chunsheng Li & Ali Shoushtarian • Associate Societies Liaison Adelene Gaw • Website Managers Andy Karam & Chris Malcolmson • Social Media Managers Sven Nagels & Chris Malcolmson • Media Reviewers Melanie Rickard, Ralph Thomas, Sven Nagels, Young-Khi Lim, Duncan McClure, Talatoshi Hattori & Cheng Wei



## 2020年IRPA15会告（韓国、ソウル）

### IRPA役員による訪問報告書案, 2016年3月

#### Introduction

IRPA役員としてR Czarwinski, R Coates, B LeGuenが、韓国放射線防護学会(KARP)を主催者として2020年3月に開催されるIRPA15国際会議の準備状況を評価する目的で2016年3月2日から4日まで韓国のソウルを訪問した。著者らは会議の開催地として提案されているCOEX複合施設と、デジョンにあるソウル国立大学病院および韓国原子力研究所(KAERI)を視察した。

我々は、ICOC委員長のJong Kyung Kim氏およびKARP会長であるYoung-Khi Lim氏と数名の関係者らが率いるKARPIに  
対応された。視察はソウル観光協会により支援され、PCO(MECI)の代表者らが随行した。

#### General

ソウルが国際会議ビジネスにおいて重要な役割を果たしていることは明らかで、これまでに世界で5番目に最良の会議開催地と選出されている。大小さまざまな国際会議などのホストとして数々の成功を収め、最近の重要な実績となっている。市街地からアクセスの良い近代的な空港を介して、素晴らしい国際的な交通機関網が存在する。この規模の都市としては生活するための費用はリーズナブルで、さらに安心安全の環境と素晴らしい公共交通機関網を供給している。どこにいても生活に「ハイテク」が取り入れているのが見受けられ、都市と周辺環境とを横断する多くの文化的な魅力により均衡がとれている。

#### IRPA15 Planning

KARPIは、会議の成功に必要な重要な機能的活動等に適切に着目する組織である国際会議組織委員会(ICOC)を既に設立している。彼らは韓国の関係者による確実なサポート、会議センターとの初期計画、初期費用の調達において良い進捗をもたらしている。ICOCの構成は、放射線防護領域から原子力、産業、医療、学術にまで渡りよくバランスがとれている。

原子力および放射線技術産業、韓国政府官庁、ソウル自治体から、関連する専門家団体に対する横断的な会議への支援が存在している。経験豊富なPCO(MECI)が携わっており、計画チームに統合されている。

IRPA14にしたがって想定された会議参加費を含め、予備的な資金は既に準備されている。

#### Congress Venue

会議はソウル市の南に位置するCOEX複合施設と展示センターにて開催される予定である。これは幾つかのイベントを受け入れる余地がある大きな複合施設である。宿泊施設と連結しており、さらに大きなショッピングセンターも併設されている。開催予定会場は融通が利き、幾つかの大会議室、講義室、展示ホールが設置されている。IRPA15のために提案されている予備的なレイアウトは素晴らしい会議を支えるだろうし、会議計画の進捗に伴う詳細な調整に柔軟性がある。韓国には最先端の支援技術を期待する。



## Hotels and Restaurants

COEX複合施設は3つの宿泊施設に直接的に連結しており、そのうちの1つは本拠地のホテルとして選ばれるようである。徒歩10分圏内に23の宿泊施設があり、ソウル南部ではホステルから高級ホテルまで必要な幅広い範囲の宿泊施設が存在している。近接する巨大なショッピングとホテルの複合施設内にはレストランから屋台まで幅広さがあり、市内の至るところの多くのレストランで、各国の料理を味わう機会をあたえてくれる。また2つの地下鉄駅がCOEX複合施設に直接乗り入れている。

## Visits Programme

技術的な視察には、原子力および放射線技術と医学利用を網羅する幅広いオプションがあった。同様に市街地は、文化的小および社会的な数多くの魅力に溢れていた。

## Summary

我々の全体的な評価は、組織委員会がとても有能かつ熱心で、韓国国内のすべての関係機関が幅広く支持しており、開催予定会場はIRPAの要求に適切であり、さらに期日までの計画の発展が2020年の会議の成功を保証するための健全な基盤を供給することを示している。それ故に我々は、IRPA理事会および総会が、2020年3月11日から15日に韓国ソウルでIRPA15を開催することを最終的に承認することを推薦する。





## 韓国放射線防護学会(KARP)

KARPは、韓国における放射線防護および一般公衆と業務従事者に対する放射線安全に関する実践の促進のための有数の学術団体である。1975年に設立され、KARPは、科学、産業応用、医学の専門のバランスがとれた1,000以上の登録された会員のうち、積極的に活動する約550の会員により構成されている学会を発展させてきた。本学会は、研究者および業務従事者のための会議やワークショップを年に2回開催している。また、4半期ごと(3か月ごと)にICRP勧告を韓国語に翻訳したものとJournal of Radiation Protection and Researchを刊行している。同様にたびたび、一般公衆における放射線防護の認知度を向上させるための社会的なイベントや公衆への教育プログラムを主催している。

KARPは放射線防護に係る他の国際的な組織とも協力的な関係を維持している。KARPは、2002年にAsian and Oceanic Association for Radiation Protection(AOARP)とInternational Radiation Protection Association(IRPA)に加盟し、アジアおよびオセアニアで行われた初めてのIRPA会議の主催者として成功を収めた。それに加えて、中国および日本における放射線防護の学術団体とのCJK(中国、日本、韓国)間の協力関係を樹立した。さらに日本の専門家と協働して、KARPは2011年の福島第一原子力発電所事故の放射線および心理学的な影響をレビューするために、2012年と2014年にソウルにて洞察に満ちたワークショップを開催した。最近では、2015年10月にKARPは放射線防護体系に関する第3回ICRPシンポジウムをICRPと協働して開催した。

KARPは2012年にグラスゴーでの会議においてIRPA15の開催地として選ばれ、2016年のケープタウンでの会議で正式に承認された後、ソウルにおけるIRPA15開催の発表を行えるようになった今、光栄に感じている。KARPは2020年ソウルでのIRPA15開催を介して放射線防護における経験と知識を共有する責任を拡大させることを約束する。





## 原子力安全及び放射線防護への功績に対する大英帝国四等勲位 (O.B.E.)の授与

女王陛下生誕日の栄誉(2016年6月11日)

西ヨークシャー(Yorkshire)、ハリファックス(Halifax)の出身であるロジャーは、1968年にケンブリッジ大学(Cambridge University)より自然科学の学位を、リーディング大学(Reading University)より物理学の博士号を授与され、さらにスワンシー大学にてポストドクを始めた。1975年に彼はセラフィールド(Sellafield)の健康および安全部門に加入し、それ以降30年以上にわたり英国核燃料会社(BNFL)に勤務し、セラフィールドおよびワリントン(Warrington)に所在する本社の両方に勤務した。セラフィールドの安全部長を務めたのち、2000年に彼はBNFLの環境、健康、安全(EHS)担当役員に就任し、2006年に会社を退職するまで英国原子力グループのEHS役員を務め続けた。

次に彼はウィーン(Vienna)のInternational Atomic Energy Agency(IAEA、国連の関連組織)にポストを得た。ここで彼は、イラク政府による戦争で損傷した原子力施設の廃止をサポートすることに関わった。2008年以降、ウェストカンブリア州(West Cumbria)に所在するLLW Repository Ltdの非常勤役員に就任し、さらに幾つかの他の原子力組織に安全上の問題に関する助言を行っている。

ロジャーは放射線防護の分野において国内外で広範囲にわたり関与しており、さらに1995/6年に放射線防護学会の会長を務めた。彼はIRPAの会議担当の副会長として、2012年にグラスゴーで開催された国際会議組織を率いた。彼は2012年から2016年までIRPA副会長として在職し、2016年から2020年までの任期でIRPA会長となることが、2016年3月にケープタウンで開催されたIRPA国際会議の会期中に決定した。

ロジャーはヘーゼルと48年前に結婚して2人の息子を育て、彼らはそれぞれマックルズフィールド(Macclesfield)とチェルトナム(Cheltenham)に2人の孫とともに居住している。1975年から1990年にかけて家族はウェストカンブリア州ゴスフォース(Gosforth)に住み、ここ20年間は、ロジャーとヘーゼルはカンブリア州のウルバーストン(Ulverston) 近く、バウス(Bouth)村の湖畔南(South Lake)に住んでいる。

IRPA会長 ロジャー・コーツ(Roger Coates O.B.E)



## エジプトニュース

1. Egyptian Medical Physics Associationにより企画された1 dayセミナーが、8月14日にカイロのNasr Medical Instituteで開催された。本セミナーの主旨は、エジプトにおける医学物理に関する活動のレビューであった。
2. 9月24日から29日にかけて、Environmental Physicsの第7回大会が美しい都市であるSinaiのSHARM ELSHEIKHで開催された。
3. 新たなジャーナル(Radiation and Nuclear Applications)の創刊号が発行された。(ウェブサイトは下記)。  
<http://www.naturalspublishing.com/ContentTB.asp?JorID=54>

**Editor-in-Chief: Atef El-Taher**

**Editorial Board**

**Marina Frontasyeva**, Joint Institute for Nuclear Research, Dubna, Russia

**Rafael García-Tenorio**, Seville University, Spain

**Ahmed Hassan Azzam**, Atomic Energy Authority, Egypt

**Mohamed Gomaa**, Atomic Energy Authority, Egypt

**Şeref Turhan**, Kastomunu University, Turkey

**R. Ravisankar**, Thiruvalluvar University, India

**Roberta Guerra**, Bologna University, Italy

**Ashraf Khater**, King Saud University, Saudi Arabia

**Laith Nagam**, Mosul University, Iraq

**M. N. H. Comsan**, Atomic Energy Authority, Egypt

**Nada Fadhil Tawfiq**, Al-Nahrain University, Iraq

**Mohamed Ali Omar**, Khartoum University, Sudan

**Ali Abid Abu Jassim**, University of Kufa, Iraq

**Rohit Mehra**, Jalandhar University, Punjab, India

**Chang-Kyu Kim**, International Atomic Energy Agency, IAEA

**Francesco Caridi**, Agency for Environmental Protection of Calabria, Italy